

## 9 三遠南信地域住民セッション 要旨

San-En-Nanshin Summit 2012 in Higashimikawa

### 開会

#### 松本氏（三遠南信地域を学ぶ会）

ただいまより三遠南信サミット 2012 in 東三河住民セッションを始める。三遠南信住民ネットワーク協議会・原田代表世話人よりあいさつをお願いします。

### 開催地あいさつ

#### 原田敏之氏

#### （三遠南信住民ネットワーク協議会代表世話人）

2005年に浜松で住民セッションがはじまってから4巡目に入った。これまで年に1回の交流では何もできず、地域の提案などをとりまとめる体制をつくることできないかという意見が出ていた。新しく連携して事業を展開していくためにその必要性が求められていた。

そして前回の浜松での住民セッション終了後、組織設立に向けて動き出した。何度かの設立準備会を経て、2012年6月1日に愛知県民の森において三遠南信住民ネットワーク協議会の設立総会を行った。設立総会后、連携事業を行うためのプレゼンテーション（大交流会）を企画し17団体がエントリーした。この発表後、呼びかけに応じていくマッチングの時間も設け、話し合う機会を提供することできた。

それ以後、新しい連携の具体的な動きができてきた。これからは連携を中心とした動きに重きを置きながら活動を展開していくことができると思われる。

またお互いの意見を出し合う場を設け抱えている共通の課題を共有していくことで整理し、住民みんなの声として解決への提案となっていくこととなるだろう。その前提となるのは交流であり、お互いの顔と顔、

声と声がしっかりと結びついていく関係を続け、強化していくことを進めていきたい。

本日の発表は地域を越えて連携してきた事業を成果の1つとして報告である。これらの発表をもとに参考にして今後新しく連携が展開されることを期待する。

### 三遠南信住民ネットワーク協議会設立趣意書

三遠南信地域の中で、地域のためのさまざまな活動をする住民団体、または地域に関心を持つ個人は、これまでそれぞれの地域での活動を展開しつつ、一方で団体間の交流や連携の必要性を感じ、その方法や機会を模索してきました。

そのような中で、2005年に浜松市で開催された第13回三遠南信サミット2005 in 浜州に「住民セッション」が設置されて以来、このセッションの場を利用しての交流や連携、議論の場を設ける努力を続けてまいりました。

しかし、このままでは全く不十分であると同時に、議論を進める中から新たな課題も登場してきました。それらは以下のように整理することができます。

1. 三遠南信という広域での交流・連携をさらに効果的に進めるために、相互間をつなぐための「機能」が必要となる。
2. 交流・連携にとどまるのではなく、活発な議論の中から「新たな事業」を積極的に生み出してゆけるような「体制」をつくる必要がある。
3. さまざまな成果をより明確に、かつ広く訴えてゆくことができる「力」を生み出してゆく必要がある。

これらの課題を解決するためのものを「プラットフォーム」という言葉で表してまいりましたが、その実質的な役割を果たしていくために、新たに東三河・遠州・南信州を機能的につなぎ合わせる新たな組織をつくり、積極的に運営を回っていく必要はないかと考えます。

よってここに、新しく「三遠南信住民ネットワーク協議会」を設立し、三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）と協力を図りながら、広く参加を呼びかけていくことを提案します。

2012年6月1日  
三遠南信住民ネットワーク協議会設立発起人一同



#### 松本氏（三遠南信地域を学ぶ会）

ではこれから第1部連携事業マッチングプレゼン（事例発表）に移る。ここからの進行は水島氏（NPO 三遠南信アミ）にお願いします。

#### 進行 / 水島氏（NPO 三遠南信アミ）

1団体10分の持ち時間で発表し、質疑応答は第2部の意見交換・フリーディスカッションの際に行う。

## 第1部 連携事業マッチングプレゼン

### 報告1

#### 合唱劇「カネト」をうたう合唱団(新城市)

清水良文氏

飯田線は三遠南信を貫く重要な鉄道である。沿線の人口が減少するなかで電車の本数も少なくなっており、何とか飯田線を活性化したいと思いである。

合唱劇「カネト」をうたう合唱団は1999年11月に設立し、豊橋、豊川、新城、飯田などから55名の団員がいる。合唱劇「カネト」を各地で回り、三遠南信地域の隠れた歴史・川村カネト氏の生涯を合唱と芝居(27曲1時間30分)で広め伝えていくことが目的で活動している。旭川出身の川村カネト氏は、昭和初期に三信鉄道(三河川合 天竜峡)の測量と建設工事に測量技師・現場監督を務めた人物であった。

2000年から本格的に活動をはじめ、飯田線の臨時列車カルチャートレインで歌ったりした。同年11月に豊橋・豊川で初演をはじめた。その後、新城市での公演と続き、飯田出身の団員がいたことがきっかけで飯田でも公演した。

2007年には名古屋公演を行い、2008年の東三河公演では飯田や名古屋からの団員を交えて公演した。同年の旭川での公演も行うことができた。

また、飯田線沿線の三遠南信地域でさまざまなイベントにも積極的に参加し交流を行なっている。三遠南信自動車道開通に関連したイベントでも歌うことができた。

これまでは東三河地域や南信州地域(飯田)では公演を行なってきたが、まだ浜松をはじめとする遠州地域での公演を実現していない。三遠南信交流を促進するためにも、遠州の地元のみなさんの協力を得て浜松公演を実現したい。



飯田線車両の中で「線路がない歌」を歌う  
(2000年～2008年カルチャートレイン)

#### 過去の公演

2000年11月	合唱劇「カネト」初演 豊橋・豊川公演
2003年2月	新城公演
2004年4月	佐久間レールパークまつりにて
2004年～	イラクの子どもたちへの支援「平和を願ういのちの音楽会」毎年参加
2004年10月	飯田市天竜峡「天竜川総合学習館かわらんべ」野外公演
2006年10月	天龍村坂部での秋の風のコンサートに出演
2007年10月	飯田カネト合唱団主催の飯田公演、東三河から40人参加
2007年11月	名古屋公演、東三河、名古屋合同開催
2008年6月	東三河公演、飯田、名古屋からも参加し150人の舞台となる
2008年7月	旭川公演、旭川合唱団とともに200人の舞台。川村兼一氏も役者で参加

#### 過去の公演

2008年11月	「全国うたごえ祭典in東京」で東三河、飯田、名古屋、旭川の仲間と合同で歌う
2009年6月	三遠南信交流ゆかりコンサートに飯田合唱団とともに出演(天龍村坂部)
2009年10月	飯田市竜丘小学校公演(飯田カネト合唱団)に東三河からも参加
2010年2月	浜松市佐久間「がんばらまいか佐久間女性の集い」で飯田合唱団と合同で歌う
2010年11月	飯田市浜井場小学校公演(飯田カネト合唱団)に参加
2011年5月	東日本大震災チャリティ公演で歌う(豊川市)
2011年10月	三遠道路開通前イベントで鳳来東小学校(三河川合)の子どもたち、飯田カネト合唱団とともに三遠道路上で歌う
2011年11月	鳳来東小学校の子どもたちと学芸会でいっしょに歌う
2012年5月	平和を願ういのちの音楽会で歌う(豊橋市)

## 報告 2

### NPO 三遠南信アミ（浜松市中区）

中野 眞氏

三遠南信アミは、2000年からでNPOになったのは2005年からです。三遠南信地域のさまざまな魅力を発信する地域雑誌を発行してきたが、現在は休刊し、インターネットなどを通じて情報発信することは続けている。そして三遠南信地域に詳しい松田不秋氏の力によって交流をコーディネートしてきた。

最近の三遠南信アミの取り組みを紹介すると地域の歴史・文化や自然・風景などの素晴らしい魅力を紹介しているが、力を入れている活動は三遠南信の地域や人を元気にするために経済の循環を促すことである。地域や人が元気になるには都市と中山間地域がつながって経済が活性化するように必要がある。暮らしを支える元気の素は中山間地域の生産者が行っていることが認識され評価され経済的に充実すればモチベーションも高めることができる。

経済の循環を促すために「モノを動かす」「人を動かす」「きちんと伝える」ことをテーマにして活動している。「モノを動かす」という点は、生産者（農林漁業者・加工者）それを売ろうとする人、そして買おうとする人をつないでいくことを具体的に三遠南信地域の素晴らしいモノをもっと動かしていこうとする取り組みである。

「人を動かす」では、観光交流資源に人が訪ね滞在し癒やされる場としての三遠南信地域という考えで都市と中山間地域をつなぐことをもくろんでいる。豊橋や浜松だけでなく、名古屋や首都圏も視野に入れた地域まで想定している。

「きちんと伝える」では、情報をきちんと発信し地域資源や宝物を魅（見）せていくことも重要である。

現在は南信州の団体と連携して浜松市の軽トラ市参加や、既存店舗を活用したアンテナショップの開設、農家グループなどの高速道路のサービスエリア出店などをコーディネートする連携事業を開始した。

さらに今後の展開としてはインターネットなどを利用して事業者同士が集まり実際に取引が始まる機会を設けたい。三遠南信道・新東名高速付近の引佐地区で開催できればと考えている。



三遠南信地域の魅力を活かして、活性化する

- 1 モノを動かす**
  - 作り手と売り手と買い手をつないで、経済活性化
  - 「農と食」「森と木材」など
- 2 人を動かす**
  - 三遠南信地域の観光資源を活かす
  - 都市部と中山間地をつなぐ
- 3 きちんと伝える**
  - 地域の宝物を魅せる・伝える
  - 「歴史と文化」「自然や風景」に住民の思いとプロフェッショナルな人々の力を重ね合わせる

NPO法人三遠南信アミ 2

モノを動かす～三遠南信交流市場(BtoB)

三遠南信地域モノ/農の事業者間の取引場

【概要】現代の道の道をつくる

- 三遠南信地域の農林水産物
- 事業者（農家・加工業者・流通業者）が持ち寄り
- 期待の交換する場づくり

【ねらい】

- 三遠南信地域の農の宝庫
- しほい、多品少量の物流ネットワーク
- 真ん中に、集まってモノを持ち寄る場があれば解決するのは

【平成24年6月からの動き】

- 「南信州ここに」と連携
- 浜松まちなか軽トラ市へ南信州から出店、物産の販売
- 三遠南信アンテナショップとして「東江特産市場」を活用
- 浜松の農家グループ「ゆめ市」と南信州について、浜名湖SAで販売、売木のとろころし、松川のリンゴ...
- 浜松の農家が南信州で生産、南信州の農家が浜松で生産企画中
- インターネット上で、モノの情報を交流する場づくりチャレンジ中

◎ 三遠南信地域の産物が地域内で流通する（多品少量・農産物の仕分け）  
◎ それぞれの地域の魅力があるモノが、足りない地域に届く  
◎ 小売向けと地域経済の活性化につながる  
◎ 地元の事業者が活躍  
◎ 三遠南信道などインフラを活かせる

NPO法人三遠南信アミ 3

### 報告 3

#### 旬ネットワークうるぎ（売木村）

後藤俊文氏

2005年4月に毎年増え続ける荒廃地を少しでも減らして村を活性化させようと、団塊の世代を中心に5人のメンバーで有限会社を立ち上げた。当初は水田の耕作65アールから始めた。現在では1ターンのみなさんをはじめ、現在は十数名にメンバーが増えた。

我々が名付けたはざかけ米は、有機肥料を多用し減農薬で丁寧に育てた稲で、全苗はざかけで仕上げている。品種は、はざひかり（はざかけしたこしひかり）はざこまち（はざかけした秋田こまち）での2種類である。

お米だけでなく、トウモロコシの生産と販売もおこなっており、毎年5月に約4万5千本のトウモロコシを植え付ける。糖度18度のトウモロコシは、対面販売で試食をしてもらい味を納得してもらって購入してもらう。販路は愛知県内や浜松市まで拡大している。また最近ではうるぎ米240kgを使った焼酎（醸造は蔵元）を販売したり、干し柿作りにも挑戦している。

そのほか農業体験を受け入れ、「うるぎ米そだて隊」事業を毎年実施している。東京や大阪などの中学生や親子が申し込み、全7回スケジュールの売木村の通い、手植え・手刈りで稲作を体験してもらう。そだて隊を経験したOB・OGは「またきたい隊&てつだい隊」として応援に何度も売木村に訪れている。

これからは1ターンや定住を受け入れる為のはじめの一步として、長期滞在が出来る施設・環境を行政と共同で取り組みながら、人と人が、モノとモノが往来する村になるための、土壌づくりを今後も目指していく。



#### 食の安全と旬の味を食卓に



- はざかけ米（はざひかり、はざこまち）
- 長野県エコファーマーの取得（有機、減農薬）
- 標高800メートルの高原の地の利（とうもろこし）

#### トウモロコシ販売 （ゴールドラッシュ）



#### うるぎ米そだて隊 全7回



#### 報告 4

##### 豊橋読書サークル連絡会（豊橋市）

長坂静子氏

飯田・豊橋読書交流会は 1997 年に豊橋読書会の役員が飯田市立図書館を訪れ、草の根の交流を提案し、



飯伊婦人文庫のみなさんが賛同したことに始まる。そしてその年に田原市伊良湖で文学探訪を兼ねた第 1 回目の交流が持たれた。これを契機に豊橋では個々に活動している複数の読書会が連携を密にしようと豊橋読書サークル連絡会が発足した。

交流会は第 1 回が講評であったことで 16 年間続く。そのなかで特に印象的であった交流会は、豊橋から南信州へ訪問したことで飯田から三河と遠州を案内し文化に触れたことであった。

豊橋読書サークル連絡会は、さまざまな交流を通してお互いの文化歴史に触れ、本を読んでいる「静」の活動から「動」の行動することで発展するできたことは大きなものであり、ふるさと再発見・郷土愛が増した。一方、飯伊婦人文庫は、豊橋読書サークル連絡会から影響を受けたことの 1 つとして、図書館まつりを参考に同様のイベントを飯田でも開催するようになった。これは交流し学び合った成果であった。こうした県境を越えた豊橋と飯田の交流は大きく評価されて賞を受賞することになった。これからは、高齢化が進み、若い世代の会員の獲得には工夫が必要である。山と海との交流によってお互いに学びあい励まし合って異文化を吸収し、それを 1 つの糧としてこれからも長く続けてゆきたいと思う。

#### 報告 5

##### 三遠南信地域を学ぶ会（豊橋市）

吉田和代氏

三遠南信地域を学ぶ会は、本年 2012 年で 10 周年を迎えた。本会は三遠南信地域の歴史・文化などに関心を持つメン



バーが集まり、豊かな地域資源を訪れ、学び、理解を深めようとするを目的に活動している。

10 年間の活動のなかで積み上げてきたものは、現地へ趣くだけでなく、人と人との心のつながりができたことである。その一番最初が 2006 年 5 月に東三河・遠州と南信州のメンバーが秋葉街道をめぐる青崩峠で交流した交流会であった。その年の 10 月には小川路峠でも同様の交流会を行ない、さらに交流を深めた。こうしたつながりによって飯田市上久堅小と豊橋市賀茂小の子どもたちが山本勘助のゆかりの地として交流を行うきっかけにもなった。

もう 1 つが天龍村坂部で行なわれているさまざまな活動に参加することで新たな出会いがあり、情報を得る場でもあった。はじめは南信州だけであったものが遠州にも広がっていった。

こうした交流を通じて各地を訪問するが、単なる観光ではなく必ず地元のみなさんと交流し、三遠南信地域が大好きになっている。我々の活動はまさに顔と顔、そして声と声でつながった結果であった。

三遠南信地域は広く、訪れたことのない地域が多く存在する。公共交通機関ではなかなか訪れることのできない遠い地域もあるため、移動手段が困難を強いられることがあり、この課題を解決する必要がある。

## 報告 6

### 遠州地方発！地域活性化プロジェクト 「ミナの森」(浜松市天竜区)

津ヶ谷寛奈氏

地域活性化プロジェクト「ミナの森」は浜松市天竜区水窪町にある廃校になった旧西浦小学校校舎を借り受け、地域活性化事業に活用するものである。将来的には山の再生まで視野にいたれたプロジェクトで、スタートしてから1年が経過した。

本プロジェクトを全国発信するために、まずは水窪を舞台にした映画「果てぬ村ミナ」を製作し、本年12月に公開する。

水窪は浜松中心部から75kmのところにあるが、この距離を埋めるにはここを求めてくる人を呼び込む必要がある。この企画を立て廃校を活用するにあたり地元の物産展などを考えていたが、都市部から中山間地域に人を呼び込む手段として水窪での映画づくりとなった。

地域づくりとしての映画づくりはロケ地ツアーとしてにぎわうが、長くて4年程度しかも持たないといわれる。そうならないためにも地域の貴重な財産といえる「方言」を使ったオリジナルキャラクターをつくり、それを活かしたアニメづくりもすすめている。映画、アニメ、廃校を3セットで考えていく地域活性化の取り組みである。

1年間いろいろやってみたがなかなか人が集まらないのが現状である。しかしこの映画を撮影したことで、ミナの森を利用した地元水窪の商店街のみなさんを中心に組織を立ち上げた。映画やキャラクターを用いた新商品づくりなどを行ない、もう一度まちを活性化しようという動きも出てきた。

ミナの森プロジェクトは三遠南信地域のみなさんとも連携しながら進めていきたい。



## 報告 7

### 祭り街道の会（阿南町）

伊東直幸氏

阿南町からはじまった祭り街道（国道151号線・遠州街道）と名付ける取り組みは、県境を越えて愛知県豊根村や東栄町まで拡大し、沿線に看板設置するなどして広く知られるようになった。そして祭りを通じて地域をつなぐ心の交流街道として位置づけている。

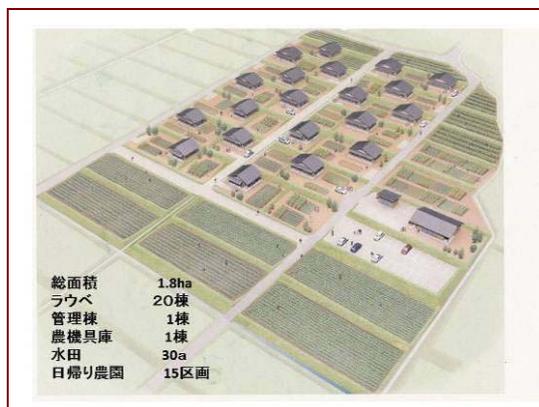
こうした動きのなかでクラインガルテン新野高原が開設された。宿泊と農園がセットになった滞在型市民農園で、地域のみなさんも加わり都市と農村の交流の場となっている。

阿南町は祭りが盛んなため施設利用者のみなさんには実際に祭りを見てもらって楽しんでもらい、自然が豊かさを満喫してもらっている。

また市民農園利用者のみなさんにはこうした1年間の楽しみをまとめた「ふるさと講座」を開き、さらに地域のことをより深く知ってもらう取り組みを行なっている。

祭り街道・国道151号線は三遠南信の地理的中軸であり、祭りが集積している。この地域の祭り文化を通して地域を守ることができるように頑張る必要がある。「祭りの衰退＝地域の衰退」ということであるため、そういうことにならないように三遠南信地域全体で血液の通った地域であってほしい。

祭り街道は、阿南町、豊根村、東栄町までしか呼称されていない。国道151号線全線までそう呼ばれるように多くもみなさんにご理解とご協力をいただければと思う。



## 第2部 意見交換会・フリーディスカッション



発表者と参加者との情報・意見交換などが行なわれた。

### 進行 / 水島氏 (NPO 三遠南信アミ)

続いて参加者の中からこうした活動を実践している団体を紹介する。

### 鞍掛山麓千枚田保存会・小山氏

新城市四谷にある千枚田の保存活動を始めてから 22 年間になる。現在では年間 2 万人を超える来訪者があるが、この活動は経済的なことを無視した活動である。ふるさとを守る力があればそれでいいと思う。都市部からの来訪者においしい空気を提供し喜んでもらえばいいと思う。その結果、三世代を通してこの中山間地域へ訪れるようになった。四谷へ訪れた方は住民セッションに参加したみなさんのところにも訪れているはずだからつながりができている。こうして地域を発信して行くことでつながりができるはずである(情報誌「四谷の千枚田だより」を毎月発行)。

### 高森町茗荷村を考える会・大石氏

障がい者福祉の活動を行なっている。知的障がい者教育の実践経験から福祉や社会のあるべき姿を世に問うた映画「茗荷村見聞記」を上映し、茗荷村の取り組みを学び理解を深め、障がい者の人たちも一般の社

会で生活できる環境をつくってほしいという思いで活動している。こうした活動に興味のある方と交流をしていきたい。

### 閉会あいさつ

#### 木下利春氏

(三遠南信住民ネットワーク協議会世話人)

今回の住民セッションは南信州で開催が予定されている。これまでは年度が替わり、空白の時間において本番までの 3

~4 ヶ月という短期間で準備を行なってきた。しかし、2012 年 6 月 1 日に三遠南信住民ネットワーク協議会が設立され、住民セッション翌日から次回の準備に向けた動きを試みるようにした。

協議会設立後から南信州と遠州・東三河との連携事業が動き出した。南信州には海のモノ、遠州には山のモノを販売するアンテナショップを開設した。

本日の発表にもあったように交流・連携が継続していることが分かった。これも先人の力が合ってこそなしたことで、これからはその意志を我々が引き継ぎ、つないで形にしていくことになる。

それに関わることとして中山間地域がどのように生き残っていくかという問題が残るが、人と人とのつながり、モノとモノのつながり・流れをどのようにしていくか、これらの課題を 3 年間くらいかけて取り組んでいきたい。ここには物流、福祉、観光、地域資源、ビジネス、生き方などすべてが関わっている。

来年に向けて東三河・遠州・南信州が協力して住民セッションや三遠南信住民ネットワーク協議会を盛り上げていくことができればと思う。



## 三遠南信住民ネットワーク協議会設立趣意書

三遠南信地域の中で、地域のためのさまざまな活動を続ける住民団体、または地域に関心を持つ個人は、これまでそれぞれの地域での活動を展開しつつ、一方では団体間の交流や連携の必要性を感じ、その方法や機会を模索してきました。

そのような中で、2005年に浜松市で開催された第13回三遠南信サミット2005 in遠州に「住民セッション」が設置されて以来、このセッションの場を利用しての交流や連携、議論の場を設ける努力を続けてまいりました。

しかし、このままでは全く不十分であると同時に、議論を進める中から新たな課題も登場してきました。それらは以下のように整理することができます。

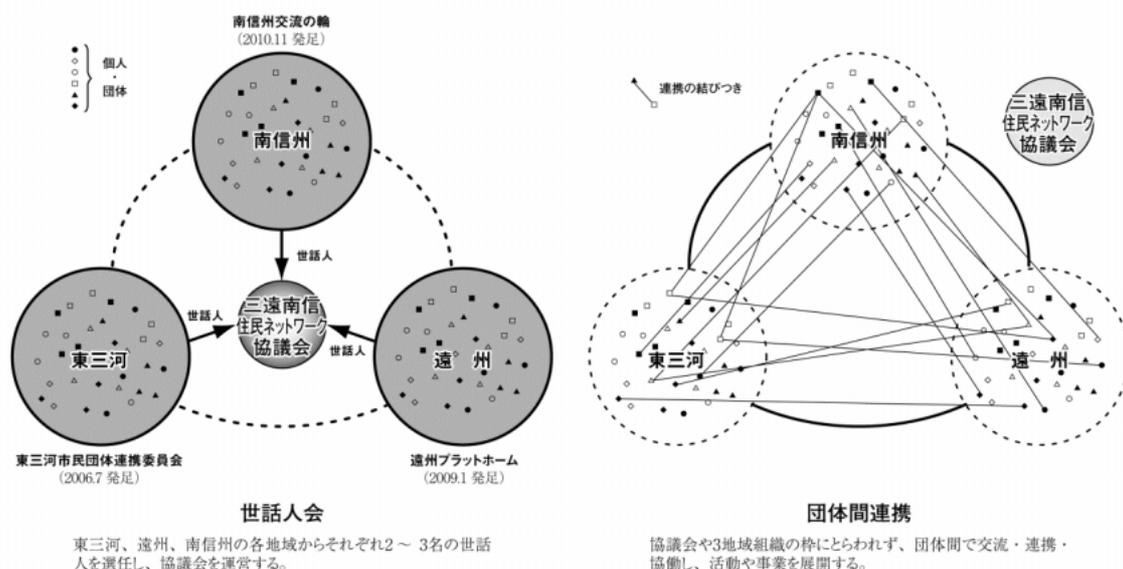
1. 三遠南信という広域での交流・連携をさらに効果的に進めるために、相互間をつなぐための「機能」が必要となる。
2. 交流・連携にとどまるのではなく、活発な議論の中から「新たな事業」を積極的に生み出してゆけるような「体制」をつくる必要がある。
3. さまざまな成果をより明確に、かつ広く訴えてゆくことができる「力」を生み出してゆく必要がある。

これらの課題を解決するためのものを「プラットフォーム」という言葉で表してもきましたが、その実質的な役割を果たしていくために、新たに東三河・遠州・南信州を機能的につなぎ合わせる新たな組織をつくり、積極的に運営を図っていかなくてはならないと考えます。

よってここに、新しく「三遠南信住民ネットワーク協議会」を設立し、三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）と協力を図りながら、広く参加を呼びかけていくことを提案します。

2012年6月1日

三遠南信住民ネットワーク協議会設立発起人一同



協議会運営体制(世話人会)と団体間連携のイメージ

## 2012年活動計画

---

三遠南信住民ネットワーク協議会は、組織の体制を整えつつ、よりよい連携を図りながら会員の活動を活発化させるために以下の活動を計画する。

### 1. 世話人会の開催

協議会の円滑な運営を推進していくために、世話人会を適宜開催する。

### 2. 活動のマッチングの場づくり

会員の活動や抱える課題を把握し、三遠南信地域の「連携」と「協働」を進めるための仲間探しの場「大交流会（プレゼンテーションフォーラム）」を開催する。

### 3. 連携プロジェクトの推進に向けた検討・提案

地域の抱える課題の解決策を検討し、具体的な連携プロジェクトを提案する。また、それらの提案の中から、地域の行政や経済団体等に対して地域の課題解決やプロジェクトの支援などの提言活動を行う。

### 4. 会員相互の情報交流

三遠南信地域の動きや会員の活動を互いに紹介できるようメーリングリスト等を開設し、会員が自ら情報発信し、相互の交流と連携を支援する。

### 5. 三遠南信サミット住民セッションの企画・運営

幹事地域が中心となって、三遠南信サミット住民セッションの企画を行い、三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）と調整をしながら、同住民セッションの運営を行う。

### 6. 「三遠南信」ここが楽しい事典シリーズの発行

2012年3月までに全5巻を順次発刊（三遠南信ここが楽しい事典シリーズ編集委員会編集）する。三遠南信地域の特色を広く、多くの人たちに伝えるために冊子のPRや販売促進活動を行う。